



学校だより



青梅市立東小中学校
令和2年度 第7号
10月28日(水)

社会に出たときに通用するために・・・・・

これからも 元気なあいさつを心がけよう！

校長 川窪 公夫

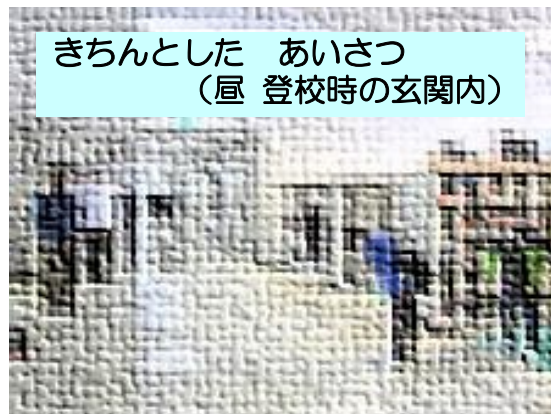
「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」
毎日、子ども達の元気なあいさつを聞いて、気持ちの良い一日をスタートしています。校歌と同様、本校の子ども達のあいさつは、誇りであり自慢の一つです。

あいさつは、人とのコミュニケーションの第一歩であり、社会に出たときに通用するための振る舞いの基本

です。下に紹介した「あいさつ」という詩は、今から、10年以上前、当時、小学1年生だった子どもが書いたものです。この詩から、あいさつについて深く考えることができます。

あいさつは、何のためにするのか。誰のためにするのか。この詩には、その答えがあるように感じます。この詩を読むと心が温かくなり、毎日、何気なくしているあいさつが私たちの生活を快適にしていることが分かります。この詩を書いた小学1年生は、もう20歳くらいです。きっと元気なあいさつのできるさわやかな青年に成長していることでしょう。

これからも素晴らしいあいさつができる本校の伝統を守り、さらに発展させるために、「大きな声で元気よく」を心がけ、気持ちの良いあいさつをしていきましょう。



『 あ い さ つ 』

「おはよう」というと目が覚める

「いただきます」というとお腹がすく

「いってきます」というと元気にいける

「ありがとう」というとほっとする

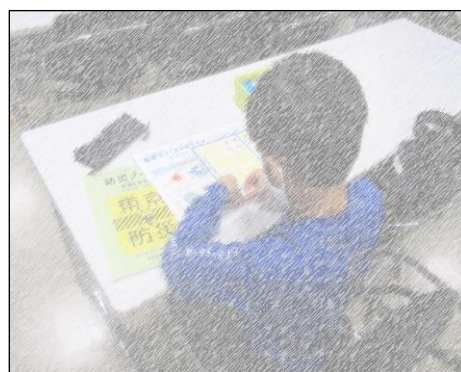
「おやすみなさい」というといい夢みられる

あいさつってうれしいな



小学校「風水害」の授業

総合的な学習の時間に、「東京マイ・タイムライン」を活用し、風水害と避難について学びました。「マイ・タイムライン」とは、いざというときにあわてることがないように、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。「東京マイ・タイムライン」では、風水害からの避難に必要な知識を習得しながら、マイ・タイムラインシートを作成することにより、適切な避難行動を事前に整理できるようになっています。



子どもたちは、マイ・タイムラインシートに時系列にシールを貼り、避難行動を確認し、また河川の氾濫や土砂災害の映像を食い入るように見ながら、真剣に災害の怖さと避難に備えた行動の大切さを学んでいました。

(文責：山本副校長)

先生たちも勉強しています



10月9日(金)、講師をお迎えし、先生方の勉強会を行いました。これは、皆さんが主体的に学習に取り組み、より深い学びに向かう授業をつくるための研究です。2年生の理科で研究授業を行い、実験のことはじめ、目標や内容・振り返りなど工夫した点や改善点について話し合いをしました。講演会では、これから急速に進むAI(人工知能)・超高齢化・国際化など社会の変化に対応し、たくましく生き抜いていくために、皆さんが

力をつける

べきなのかを学びました。10年後、20年後の社会は、ピンチもあるがチャンスも多い時代が来ると思います。学校や寮生活で学んだことを将来、社会との関わりの中で、より良い人生を生きるために活用できる人に成長してほしい。そのために先生方はどのように授業や行事を進めていくと効果的になるのか。これからも勉強を続けていきます。



<シリーズ クラブ活動は今! ?> 第4弾 陸上競技部

今回から、主にグラウンドで活動している部活動を紹介します。まずは、陸上部からです。陸上部の目標は、「声を出し、苦手なことにも挑戦し、みんなで達成感を味わって、自分を変える陸上部」これは、生徒たちが考えた目標だそうです。部員は、女子5人(含:高等部2名)で活動しています。部員たちは、「自分が失敗した時に他の人がいっぱいフォローしてくれるクラブ」「走り続けて辛くなるとあきらめちゃう自分に負けない精神力がつくクラブ」「苦しくて辛い時、みんなで声をかけ合って高め合えるクラブ」「みんなで励まし合い、チームワークが良いクラブ」「自分にできないことがあっても、声をかけてもらえると勇気が出て、できないことができるようになるクラブ」など、とても前向きな声を寄せています。きつい練習でも支え合うことを大切にチームで乗り越え、気持ちの良い汗を流しながら活動しています。厳しい練習も多いですが、その分、顧問の先生方の声援が生徒の背中を後押ししています。にぎやかな声が飛び交う陸上部の皆さんの成長に期待が高まります。



<火災を想定した避難訓練を行いました>

10月9日(金)火災を想定した避難訓練を実施しました。全員がグラウンドに避難し、無事に点呼が完了するまでに4分22秒でした。消火器訓練では、代表生徒3名が“火事だー”と大声で叫び、前回の訓練で学んだ「ピノキオ(ピ=ピンを抜く・ノ=ノズルを持つ・キ=距離を取る・オ=押す)」に従い、火に見立てた赤いコーンめがけて噴射(ふんしゃ)しました。担当の田實先生から火災の煙の恐ろしさの話をしてもらいました。その後、私から「君子(くんし)危(あや)うきに近寄らず」のことわざを通して、賢(かしこ)い人は、危ないところに近寄らない。そういう危険を感じ取るアンテナを高くして、命を大切にしてほしい。」と訴えました。子ども達も最後までしっかり話を聞き、緊張感のある避難訓練ができて良かったです。

